

加工・業務用の大玉キャベツ栽培技術の開発

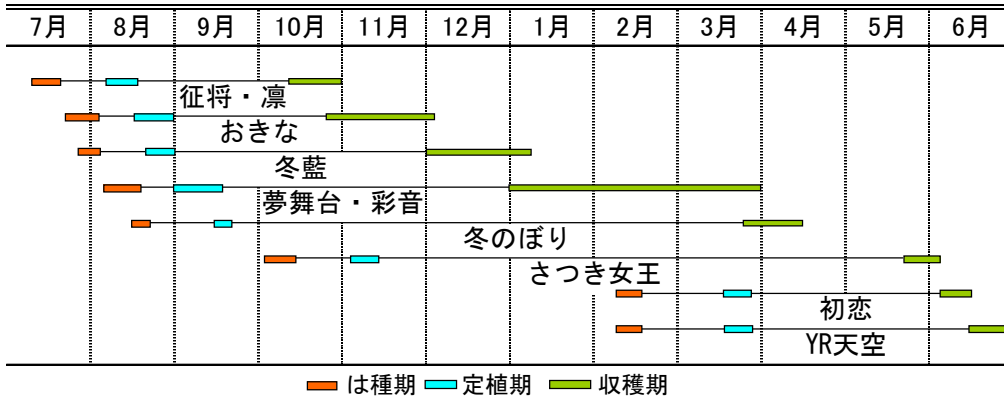
大きなキャベツを低コスト省力生産

【背景・目的・成果】

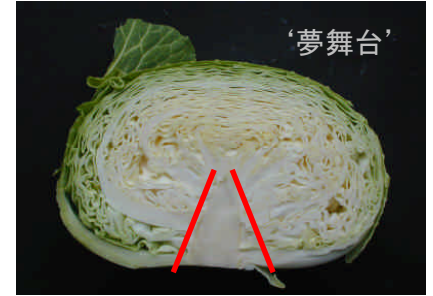
加工・業務用途での野菜消費が増加しており、キャベツでは生産量の約半量が加工・業務用として使用されています。加工・業務用には加工時の歩留まりや作業性から、約 2kg 程度の大玉のキャベツが求められます。

そこで、加工・業務用の大玉キャベツ栽培に適する肥大性の良い品種を選定し、大玉生産のための栽植密度等の栽培方法と大型コンテナを用いた省力的な収穫出荷方法を開発しました。

成果① 加工・業務用に適する品種の選定

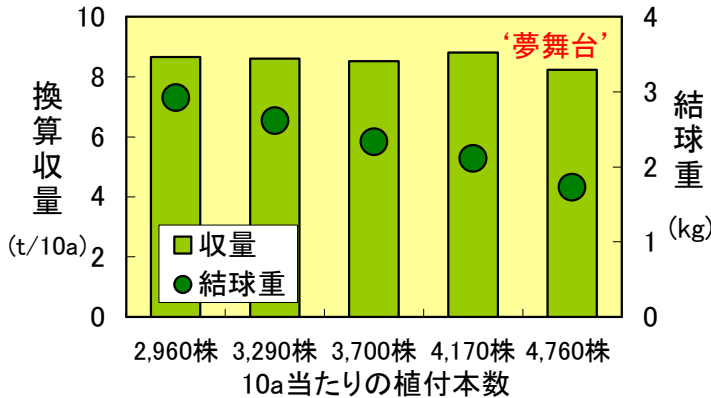


作型別の加工・業務用キャベツ品種（加西市）



結球部に葉が詰まった寒玉系品種で、肥大性が高く、加工の初期段階で切除される芯の部分が小さい品種を選定しました。

成果② 大玉生産のための栽植密度



栽植密度が結球重と収量に及ぼす影響

10a 当たり 3,000 ~ 4,800 株の範囲では、栽植密度が低くなるに従って結球重は重くなりましたが、10a に換算した収量は差がありませんでした。

◎大玉生産のため粗植栽培が可能になり、種苗費が減らせます。
◎結球内部に葉が十分に詰まってから収穫するため収量が増加します。

目標収量の比較	
加工・業務用	7 t / 10a
家庭消費用	5 t / 10a

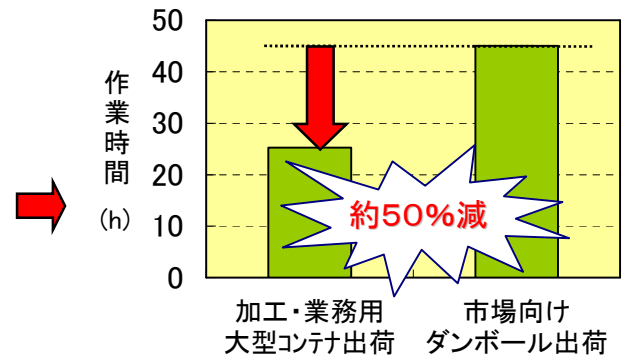
成果③ 大型コンテナを用いた省力的収穫出荷方法



加工・業務用の緩い規格を生かして一斉に収穫



ほ場で大型コンテナに入れそのまま出荷



10a 当たりの収穫出荷作業時間の比較

【技術の活用】

十分な収量の確保には適切な病害虫防除等によって欠株をなくすることが重要です。

兵庫県では、JA、県関係機関が一体となって、加工・業務用キャベツ生産振興に取り組んでいます。

今後、大規模農家の規模拡大や集落営農への導入による経営の多角化への活用が期待されます。